スヴニール・ドゥ・アンネ・フランク　　2023.5.16.

「秋吉隆雄の窓辺より」のホームページの扉を飾っている花は、通称「アンネのバラ」と呼ばれていますが、フランス語で「スヴニール・ドゥ・アンネ・フランク(アンネの形見/思い出)」です。アンネ・フランクはバラが好きだったそうです。そのことを話した父オットー・フランクと出会ったベルギーの育種家が、新種の中で一番美しいバラを「アンネの形見」と名付けて、父に贈りました。

アンネの日記を読んで感銘を受けた人がこのバラを知り、庭でこのバラを育てた父から苗木が贈られ、やがて、接ぎ木、挿し木の形で、日本のアンネを思う人々にも届いていきました。「アンネのバラは蕾の時は赤、開花後に黄金色、サーモンピンク、そして赤へと変色する特徴がある。これは、もし生き延びることができたなら、多くの可能性を秘めていたアンネを表現している」ということです。

私は 10 年ほど前にスーパーで、このタグをつけた苗木の鉢を見つけ、大喜びで買いました。狭いバルコニーで、鉢植えのバラを育てるのはなかなか難しいものです。中輪のバラであり、17 枚の花びらがあるとのことですから、割りと小ぶりです。それが、我が家で育てると、さらに小ぶりになってしまいました。でも咲きだした時には、色の変化が楽しみでした。アンネが生きていたら、どれだけ多くの働きをしただろうか、と思わずにいられませんでした。

もし、神さまが私を長生きさせてくださるのなら、私は社会に出て、人類のために働きたいのです。(*アンネ・フランク*)という言葉が残されています。ユダヤ系ドイツ人のアンネは、社会で、人々のために働きたいと願いつつも、民族差別の迫害を受け、狭い隠れ家に身を潜め、捕らわれて、強制収容所の劣悪な環境の中で 15 歳の命を終えたのです。

私のバルコニーでは、あまり環境が良くないのか、病気になったりして、消えてしまいました。あちこちを見て回り、また、注文したりしましたが、なかなか手に入りませんでした。ところが、藤沢 YMCA でアンネのバラを育て、苗木を分けてくださることを知りました。早速、お願いに上がり、手に入れ、育て方の講習を受けて来ました。バラは、大体は、あんずジャムのような感じの色合いで、育っていきます。縁取りに赤みが残ります。最後には薄いピンクになります。色は土の性質によって多少変化するとのことでした。大切に育てて行きたいと思っています。